

立命館經濟學

第二卷 第三号

昭和二十八年六月

内 容

論 說

我國近世の經濟思想(上)……………淡 川 康 一…(1)
——大山教授の近著を中心として——

研 究

封建体制崩壊に関する一考察……………足 立 政 男…(24)
——畿内在郷商人の存在形態を中心に——

棚卸資産評価について……………棚 卸 寺 島 平…(58)
——現行税法をめぐって——

稅務會計上の一考察……………高 尾 忠 男…(80)
——ディダクツィオンを中心として——

講 座

任意標本調査法(三)……………関 弥 三 郎…(91)

紹 介

C・S・フラー「資本主義過程における革新」……浜 崎 正 規…(116)
——システムベーター理論の批判——

立 命 館 大 学 經 濟 学 会

立命館経済学

第二卷・第一号

論説

資本論冒頭文節の体系的意味

梯 明秀

郷土産業考察の一例(下)

淡川 康一

講座

任意標本調査法(二)

関 弥三郎

研究

近世山城における在郷商人の商業

経営について

足立政男

O・H・Taylorのシムペーター学説における

「帝國主義論」「社会階級論」の位置づけについて

浜崎正規

発行所

立命館大学人文科学研究所

立命館経済学

第二卷・第二号

論説

社会の階級性について

阿部 矢二

——学生諸君へ——

事業課税の外形と本質

箕浦 格良

スウィーージー恐慌論の批判

松田 弘三

——恐慌論の基本問題について——

研究

連関財に関する一考察(二)

山田 邦臣

講座

税務会計における貸倒準備金の

繰入処理

高尾 忠男

書評

T・E・ミード・国際収支論

村瀬 武三郎

——国際経済政策理論 第一巻——

発行所

立命館大学人文科学研究所